

ちむどん(胸がドキドキ)な 県内の人・モノ・コトを ご紹介します!

* 今月のテーマ *

FROM OKINAWA

今、沖縄生まれの商品が、アジアを中心に世界中へと広がりはじめています。その背景には国際物流拠点形成への取り組みがあります。



①高品質な沖縄産黒糖はアジアで人気が高い。②③「沖縄大交易会」では、海外販路拡大を目指す日本全国の農林水産業者・食品加工業者と国内外のバイヤーたちが商談を行った。④⑤医療・ヘルスケア・美容・健康食品等のバイオ産業に特化したアジア最大級の国際展示会「Bio Taiwan 2017」。沖縄県産業振興公社および県内企業11社が出展した。⑥国際物流拠点を狙う那覇空港では、新滑走路の増設や貨物ターミナルの整備が進む。

東アジア20億人マーケット
その中心に位置する沖縄の可能性

かつて琉球王国がアジア諸国との交易や中継貿易で繁栄したように、沖縄県は東アジアの中心に位置する地理的優位性を活かし、再び国際的な物流拠点として成長しつつあります。2009年10月にアジア主要都市に向けての国際航空便が運行を開始して以来、那覇空港の国際貨物取扱量は約100倍に増加。成田、羽田、関西空港に次ぐ全国第4位にまで成長しました(※)。さらに、国内外バイヤーが参加する「沖縄大交易会」や海外での物産展も沖縄の国際物流拠点化(国際物流ハブ化)を促進させており、その中で多くのメイドイン沖縄が海外へと販路を広げつつあります。特に食品分野はアジア経済の成長とともにヘルシー志向や高級志向が強まり、良質で安全な日本産に高い注目が集まっています。沖縄県産品においては、牛肉、豚肉、黒糖、健康食品などの需要が高まっています。食品以外にも、恵まれた自然環境から生み出されるコスメや建築資材など、他県にはない沖縄の製品が海外から注目されはじめています。

今後、那覇空港第2滑走路の供用開始(2020年3月予定)や那覇港総合物流センターの整備により、沖縄の空・海の玄関口は国際物流拠点としてますます発展するでしょう。「FROM OKINAWA」の可能性は大きく広がっています。

※2016年度の那覇空港国際貨物取扱量は19万6,606トン。国際貨物事業が始まる前の2008年度は1,809トンだった(国土交通省調べ)



繊維質が豊富で軟らかく、甘みのある肉質が特徴

良質な発酵飼料で育てられている

CASE 1 県産和牛

沖縄には、「石垣牛」、「もとぶ牛」、「おきなわ和牛」という県産和牛があり、「和牛は柔らかくて美味しい」という世界的評価の高まりから、香港、台湾、シンガポールのホテルやレストランに提供しています。部位の説明を加える等、細やかなマーケティングが実を結んでいます。



アジア・世界へ広がる
メイドイン沖縄

国際物流拠点・沖縄から
さまざまな県産品が海外へと
販路を広げつつあります。

CASE 4 漆喰

風化造礁珊瑚を使った漆喰が台湾や中国・福建省に輸出されています。日本製品への信頼度の高さはもちろんのこと、有害物質を吸着・分解するなどの機能性が評価され、珪藻土に代わる内装材として選ばれています。



美しい仕上がりの塗り壁



クロレラやウコン、フコイダンなどを含む健康食品の輸出が好調だ

CASE 3 栄養補助食品

高い栄養価を含む「スーパーフード」としても注目を集めている県産食材。特にヤエヤマクロレラは海外からも需要が高く、ヨーロッパ、北米、アジア、オーストラリアなど約20カ国に輸出されています。



沖縄土産の定番商品。紅いものは栄養価の高さも注目されている

CASE 2 沖縄の銘菓

沖縄を訪れる外国人観光客にも人気の高い、黒糖や紅いものお菓子。ムスリムが口にできる食品の証である「ハラール認証」取得により海外販路を広げています。黒糖は東南アジア諸国でもサトウキビの栽培がされているため馴染みがあり、より安心安全な日本産への注目が高まっています。



海外の美容ライターからの評価も高い

CASE 5 オーガニックコスメ

海洋深層水や月桃・ゴーヤー・アセロラ・ハイビスカス・アロエなど、沖縄の天然素材を配合したコスメシリーズが韓国や香港などで人気に。高い美白・保湿効果が期待できると評価されています。

「FROM OKINAWA」がちむどん!な理由

- 1 国際貨物便の運行開始により、那覇空港を出発した荷物がたった一晩でアジア各地に到着! 沖縄が、日本とアジアを結ぶ架け橋になることが期待されている。
- 2 物流ルートが整備されたことでメイドイン沖縄を国内外へ発信しやすくなり、新たなビジネスチャンスが広がっている!
- 3 沖縄生まれの「モノ」が注目されることで沖縄全体の認知度がアップ。観光客誘致にもつながる可能性あり!

